

二二三三一番

萩はぎの花はな 咲さきたる野の辺へに ひぐらしの 鳴なくなる  
なへに 秋あきの風かぜ吹ふく

二二三三二番

秋山あきやまの 木この葉はもいまだ もみたねば 今朝けさ吹ふく  
風かぜは 霜しもも置おきぬべく

二二三三三番

高松たかまつの この峰みねも狭せに 笠かさ立たてて 満みち盛さかりたる  
秋あきの香かの良よさ

二二三三四番

一日ひとひには 千重ちへにしくしく 我あが恋こふる 妹いもがあ  
たりに しぐれ降ふる見みゆ